

Global Café の活動を通した 多文化理解力とグローバルコミュニケーションに対する意識の変容

令和4年2月 中瀬 葵

要旨

目的

本研究の目的は、「多文化理解」をテーマとした Global Café (GC) の活動を通し、学生の 1)多文化理解力に対する意識の変容と 2)英会話力に対する自信の向上を測り、グローバルエンジニアになるために必要なグローバルコミュニケーション力を効果的に育成する方法を考えることである。グローバルコミュニケーションにおいては、英語力よりも多文化理解力が不可欠であるというのが本研究の仮説である。

方法

調査対象は藤田担当 Academic English (AE) Phase III (前期) &IV (後期) 受講者 59 名であり、GC に定期参加した 11 名と GC に不定期参加または不参加の 48 名の 2 つのグループに分け分析した。調査には、多文化理解に関する設問と英会話力に関する設問 (CEFR) を用意し、学生は事前事後において、5 件法で自己評価をした。分析には t 検定を使用した。

結論

GC 参加学生の異文化理解力に対する自己評価の伸びは GC 不定期・不参加学生の伸びの約 2 倍であり、異文化間グループワーク力に関しては、GC 参加学生のみで伸びがみられ、その伸びは顕著であった。多国籍留学生との定期的な議論・交流を通して、異文化間のグループワークができるようになったという自信がついたように思われる。一方、GC 参加学生の英会話力への自己評価は様々で、全体として統計的な伸びはみられなかった。英会話の自信はなくても異文化間のグループワークができる自信が生まれたということは、英語という道具がうまく使えなくても、実質コミュニケーションは可能であるという気づきの反映かもしれない。多文化理解力が異文化間グループワークに対する自信に寄与していたかは明らかではないが、本研究の結果は、多文化間交流がグローバルコミュニケーション力向上に繋がることを示唆する。

指導教員 藤田 あきみ 講師